

# インターネットによる野球の今後とマイナースポーツの可能性

## The future of baseball and possibility of minor sports by the Internet

1K05B506

指導教員

主査 武藤泰明先生

山下 寛晃

副査 リー・トンプソン先生

### 1. はじめに

スポーツはメディアによって発展した。特に、ロサンゼルスオリンピックから、ピーター・ユベロスによって一業種一社のスポンサー形式が採用され、スポーツの放送権料は莫大な価格まで上昇した。ワールドカップ、オリンピックのテレビ放送は最も注目されるソフトとして全世界で放送され放送価値が飛躍的に上がった。このような時代背景でテレビ放送は人気、認知度の向上、市場の拡大を目的としてスポーツ団体にとって重要な手段とされてきた。しかしスポーツのテレビ放送の効果は薄れつつある。

現在インターネットによって情報配信の形態が激変しつつある。現在プロスポーツはもちろんアマチュアスポーツもインターネットを通じて情報を配信している。そのためマイナースポーツの情報を手にすることが難しい時代は終わり、メジャースポーツだけでなくマイナースポーツでも手軽に入手できる時代となった。このような観点からインターネットを通じて、スポーツがどのように伝えられているのかをテレビと比較しながら考えていく。またメジャースポーツ(野球)とマイナースポーツを例に出しスポーツ競技別のインターネット利用方法など明らかにしていく。そして今後スポーツがインターネットをどのように利用していくべきかを考えていく。

### 2. 研究目的

今後のスポーツ団体のメディアの利用方法についての変化について考察することを目的とする。特にプロ野球の球団とマイナースポーツの競技

団体について今後のメディアの変化について考えていく。プロ野球やアマチュアスポーツの現在のインターネットの利用状況を通じて、どのような変化が起きているのかを調査する。そして、スポーツ団体がどのようにインターネットを活用していくのか、更にはどのようにインターネットへ移行していくのかを調査目的とする。

### 3. 研究方法

第一に日本のインターネット環境、特にブロードバンド環境の普及率を調査する。第二にスポーツ団体がどのようなスポーツ情報をインターネットを介して提供しているのかを各団体のサイトから収集する。第三に各家庭がどのような目的でどのようなキッカケでどのようなスポーツサイトを閲覧しているのか、調査会社などのデータを基に検証する。

### 4. 結果と考察

結論はスポーツの今後のインターネット移行は進むということだ。プロ野球に関しては巨人戦以外の試合はインターネットへ移行しつつあり、アマチュアスポーツも動画配信しているスポーツが多く、今後一層インターネットを活用していくと考えられる。

ディアを利用することはかつてまではテレビや新聞が中心と考えられていた。しかしインターネットの登場で今後はインターネットもメディアの中心となるであろう。特に低コストで動画を配信できるという点は大きい。動画といえばテレビの専売特許であったためメジャースポーツしか動画という形

体で情報配信することができなかった。しかし一方でインターネットは動画という形式がつかえ、且つ低コストであるため、マイナースポーツでも利用できる。この点がインターネットの最大の利点だ。さらにインターネットは多様な広告形態が登場し、広告費もスポーツ団体は獲得できる可能性を秘めている。このように、インターネットはどのスポーツでも利用でき、以前まで実現できなかったメディア露出をスポーツ団体に可能にした。ウェブの広

告形態などまだ確立されていない部分が多く、未だ発展途上である。現在では各個人がメディアの一人として認識されるようになり、各個人の影響力も増している。日々インターネット環境が変化する中で、スポーツ団体が効果的なメディア露出を行うためには能動的にインターネットを活用し続けることが大切だ。

したがって今後はスポーツ団体のメディア利用はインターネットに移行していくと考えられる。